

'88FUJI FRESHMAN RACE Round 6

■28August/FUJI SPEEDWAY



「きつかった」と言いながらもトップを堅持して優勝した白井育夫。

スタート直後の1コーナー、後方集団でマルチクラッシュが発生。即座に赤旗が出され再スタートとなった。
ポールから絶妙なスタートを決めた白井育夫が逃げる。追うのは大森敏祐と三沢照彦のエキスパート勢だ。ところが、5周目のBコーナーで白井がシフトミスし、直後にいた大森と三沢は避けようとして接触、大きく順位を落としてしまう。これで白井の楽勝かと思われたが、「スリップ使われているからきつい。1・5秒くらい関係なくなっちゃう」とレイス後、白井が語ったように小山進、佐川哲郎、佐藤和弘が白井のテールを脅かす。だが百戦錬磨の白井は1コーナーのインを死守、トップを明け渡すことなくチェッカーをくぐった。

EP71スターレット

参加45台/出走36台/完走30台

※有効4戦

EP71スターレット	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	有効点
1 青木 忠洋	20	15		12			47
2 白井 育夫						20	40
3 柳川 義則	8	12		8		8	36
4 三沢 照彦	1	20		6		6	33
5 馬淵 靖虎	15			10			25
6 小山 進	4	8				10	22
7 佐藤 和弘		6				12	18
8 秋元 俊英	6	10					16
9 大森 敏祐				15			15
9 佐川 哲郎						15	15
9 下川 朗	12			3			15



激烈な2位争い。⑫佐川哲郎が⑫佐藤と⑦小山を振り切った。



EP71の表彰台。左から2位佐川哲郎、優勝白井育夫、3位小山進。

KP61スターレット

参加84台/出走36台/完走31台



最終ラップの1コーナーで「勝負！」に出た菊池秀樹が見事初優勝。

大逆転の舞台は最終ラップの1コーナーだった。トップ西山直宏のテールにはりついていた菊池秀樹は「練習でもこんなに効いたことはない」というスリップストリームを最大限に利用し、「ここが勝負」と思った1コーナーでついにトップの座を手に入れた。100Rからトップで姿を現した菊池を見て、ピットで見守っていたチームクルーから歓声があがる。ヘアピン、Bコーナー、最終コーナーと危なげなく通過、チェッカーとチームの仲間が待ち受けるストレートへ戻ってくる菊池のクルマ。2位西山との差は2秒近くまで広がっている。そしてフィニッシュ。待望の初優勝を飾った菊池は「うれしいですね、やっぱり。涙が出てきました」と笑顔で語った。

※有効5戦

KP61スターレット	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	有効点
1 小野 明秀	15		12	20	4	10	61
2 田中 義孝	12		15	10	6	3	46
2 西山 直宏		6	6	4	15	15	46
4 近藤 康晴	10		20	6	8		44
5 石井 彰		20	3		20		43
6 菊池 秀樹	8			12		20	40
7 猪俣 恵一		15			12	2	29
8 小西 好男			10			12	22
9 堀池 正義	20						20
10 平林 弘之		10	8				18



菊池を出迎えるのは'87KPチャンピオンの遠藤貢(左から2人目)。

KP61スターレットの表彰台。左から2位西山直宏、優勝菊池秀樹、3位小西好男。



佐藤守が今季4勝目! 2年連続 チャンピオン決定

藤守のチャンピオンへの道は決して楽ではなかった。苦しんでつかんだ勝利だった。

パルサーツインカム

参加18台/出走18台/完走18台

パルサーツインカム	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	小計
1 佐藤 守	20	20	6	20	20	86	86
2 春日 勇人	12	10	12	10	10	54	54
3 木下 新吾	10	15	20	3	4	52	52
4 網豆 篤	12	8	12	15	47	47	47
5 長谷川 哲夫	3		10	15	12	40	40
6 仲田 昭夫	15	3		8	8	34	34
7 星崎 一浩		8	15	1	24	24	24
8 趙 頌樹	8	6		2	1	17	17
9 金治 芳隆			4	6	6	16	16
10 大沼 弘二	4	2	3			9	9



パルサーツインカムの表彰台。左から2位網豆篤、優勝佐藤守、3位長谷川哲夫。

6周に短縮されたパルサーツインカム。ポールポジションを獲得した春日勇人のリードで熱戦の火ぶたが切られて落とされた。しかし、春日のトップもつかの間、2周目のストレートでは佐藤守がトップを奪う。続く1コーナーでは、6番手スタートの長谷川哲夫も春日を抜いて佐藤のテールにつける。勢いに乗る長谷川は3周目に待望のトップを奪取する。昨年のエクサでチャンピオン、こしも4戦中3戦で優勝を飾っている佐藤は、逃げて1周で長谷川をトップの座から引きずり降ろし、次なる挑戦者、網豆篤の追撃も振り切っ。今季4勝目をゲット、2年連続チャンピオンの栄光に輝いた。

TS-1300



TS-1300	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	小計
1 河西 政次	12	15	20			20	67
2 石川 正彦	15	20			15	8	58
3 小沢 君雄	12	10			12	20	54
4 山本照治郎	8		12		1	15	36
5 勝又 直司	4	10	4		6	3	27
6 奈良 洋	20	4			2	26	26
7 田島 栄一			15		8	23	23
8 影山 正美			6			12	18
9 石森 浩元		6			10	16	16
10 鳥田 良雄	3	8				4	15



3番手スタートの石森浩元がスタート直後の1コーナーでコースアウト、コントロールを失ってコースに戻った石森のマシンに後続車がクラッシュしてしまい、赤旗が出された。再スタートでまず飛び出したのは、ポールからスタートした小沢君雄。僅差でトップ集団を形成するのは、石川正彦、影山正美、奈良洋、島田良雄、山本照治郎、金海辰彦など強者ぞろいだ。ここから抜け出したのが小沢山本が仕掛けトップを奪う。しかし小沢がすぐに抜き返し一気にスパート、徐々に差を広げてチェッカーをくぐった。小沢は、「クルマが煮詰まった。TSは初優勝、こっそり1勝できたからうれしい」と喜んでた。

TSの表彰台。左から2位山本照治郎、優勝小沢君雄、3位影山正美。